

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372400939		
法人名	有限会社 ホリ		
事業所名	グループホームたんぽぽ		
所在地	熊本県玉名郡南関町四ツ原1338		
自己評価作成日	2021年11月	評価結果市町村受理日	令和4年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	令和3年12月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな田園風景を眺望できる小高い丘の上にあつて、すぐ近くには、毎年お花見の招待をしていただける大きな工場もあり、民家も点在しています。また近隣にはいろいろなお花の名所に恵まれており、機会あるごとに出かけて季節を味わっていただいております。ホーム内にも常に野の花、山の花に気を配り、四季を感じていただいております。米作農家と直接契約し、砂地で収穫されたおいしいお米を購入し、卵は飼育農家から直接新鮮なものを購入したり、ホーム内の畑を入居者様と作り、季節の野菜などを収穫し、美味しさを追求した料理を作っています。入居者様一人一人がその人らしく安心した生活ができるように、家族、地域、医療との連携を図り、スタッフ一人一人が入居者様に寄り添い支援しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は職員と一緒に献立を決め、買い物、調理、盛り付け、片付けなどの一連の作業を行い、そのことが利用者の心身の活力となっている。季節の行事食、献立を弁当にする、自然を体感しながらの食事、利用者と職員と一緒に和やかに食事をするなど、食事を幸せの源としている。社長は職員の日々の努力を認め信頼している。職員は信頼に応えるため主体性を持って、理念に基づき「外に出よう」「話を聞こう」など、月間目標を掲げ実践している。また、社長は職員の意見を尊重し適時、アドバイスと指導を行い、コミュニケーションを密にして、相互の信頼関係を強固にしている。利用者の心身の状況は、日々その時々、変化があることを踏まえ、職員は一人ひとりに寄り添う支援に努めており、利用者は我が家のようにくつろいでいた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様本位で、地域の中で安全に楽しく生活できますように、全スタッフの意識統一と向上の為に、月1回の全体ミーティングの時に唱和している。	理念は玄関やリビングに掲示している。全職員は理念に沿っているか振り返り共有している。毎月、「話を聞こう」「外に出よう」など具体的な言葉で表した目標を全職員で考え、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グランドゴルフ「たんぼぼ杯」を毎年開催し、多くの住民に楽しんで頂いている。ボランティアの受け入れも積極的に受け入れ、年間行事の中にも交流が図れるように行っています。隣接する工場との相互交流や買い物や外出など地域の一員として交流を図っている。	グランドゴルフ「たんぼぼ杯」に参加した地域住民から、地域の情報を得ている。地域の方から入所の相談や紹介などがあり、開設時の開催主旨であるホームと認知症への理解が深まっている。地域の個人宅から毎年、花見の案内があり出かけた時、季節の野菜が届くなど日常的な交流も見られた。ボランティアなどとの交流はコロナ禍で中止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援などを訴えながら、事業所の地域貢献のひとつとしてグランドゴルフ「たんぼぼ杯」を毎年開催しているが、地域の人々に向けて活かすというのはなかなか難しい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的(2ヶ月に1回)に会議を開催し、ホームの2か月間のサービス実施の取組状況を報告し、家族や知見者や行政からの意見を基に話し合い、その後のサービスに活かすようにしている。	運営推進会議はコロナ禍のため、開催中止とそのお知らせを送付することが市役所から伝達されている。社長は職員が創意工夫をして取り組んでいることを伝えたいという思いから、利用者の暮らしぶりや職員の勉強会などを報告している。報告書を委員会の各メンバーに直接手渡す際、「頑張っているね」という声があり、ホームの取り組みへの理解を得ていると感じている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2か月に1度の運営推進会議には町役場の担当の方に毎回出席いただき事業所の実情や取り組みを伝える等協力関係を築くようにしている。	市役所担当課とは日ごろから出向いたり電話などで質問や相談をしている。コロナ禍に関連して、運営推進会議の開催や面会の条件、注意点などについて質問したことに適切な指導があった。ホームのベッドが満床になるよう声掛けのお願いもするなど、気軽に意見交換ができる関係を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の介護保険法指定基準については、随時ミーティング等を行い説明して理解してもらっている。	身体拘束をしないケアについて、マニュアルに沿って全職員を対象に毎年研修を実施している。帰宅願望のある利用者にはゆっくり座って話を聞くことや、花の手入れ・白菜漬など得意なことをしてもらい気分転換を図るなど、拘束をしないケアに努めている。スピーチロックで気になる際は、別の言い方や声の強さ・大きさなどをお互いに注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については、全体ミーティングや勉強会、または回覧にて知識を高め全スタッフの意識を引上げお互いが注意しあえる関係を作っていくように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際自分たちの周りに対象となる方々がおらず、実感性が乏しく、勉強としては取り上げたり通達としては流している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に家族に重要事項説明書に沿って説明を行い、「保険分」と「自費」の部分のわかりやすく1か月分にして説明をし、ホーム内の見学も行い納得して締結を図っている。解約も相手にあったやり方でしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回利用料の支払いに足を運んで頂く事を原則としており、来所時を通してお客様又当方よりお願いや相談を話している。	コロナ禍のため窓越しで家族の面会を行っており、職員は玄関の外に出て積極的に笑顔で挨拶して、話しやすい雰囲気を中心掛けている。面会時に利用者の近況を報告し意見を聞き、さらに利用者の暮らしがよくなるよう、毎月手紙と写真を送り、家族の安心につなげている。コロナ禍が落ち着いてきた現在は面会の条件を緩和している。	コロナ禍が終息した際は利用者・家族・職員が交流する機会を設けることで、利用者・ホームへの理解がさらに深まると思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングや個人面接を利用して、スタッフの意見を出しやすい場作りに努めている。その結果、意見や提案が行われ良いと思われる個々のケアの方法や運営方法が取り入れられている。	社長は職員が自分で考え取り組むことが成長につながるという考えのもと、主体性を重んじている。月1回、全職員が参加するミーティングで利用者一人ひとりの困っていることはないか対応について検討している。また、職員は興味のあること、学びたいことをテーマにして自分たちで研修計画を立て実施するなど、サービスの質の向上に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績などを考慮して、やりがいある職場、向上心を持てるような職場作りにも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時に当ホームで経験のあるスタッフが指導したり、他の施設への研修、県の研修参加を含め、ミーティングの中で担当を決め発表の場を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所の推進会議、玉名郡市GH連絡協議会への参加を通して周りの見聞を広め、交流することで質を高めることを行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に対面にてゆっくりと会話を行うことで、サービスに不安を抱かせなく本人の不安を理解する対応を心かけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安をゆっくりと話、聞ける環境に努め安心して家族の気持ちを話していただくことに心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一番困っていること、一番心配していることを対応の中より探り、いろんなサービスの説明を行ってみることで、相談者のあったものを自ら選べるように図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に体操したり、歌ったり、リビングで過ごしたり、食事は同じものを一緒にとり、入居者様によっては食事の準備後片付けや洗濯物をたたんだり、畑仕事をしたり、散歩をしたり本人と共に一日を過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	3ヶ月に1回の状況報告書と2ヶ月に1回のたんぼぼ便りを郵送することで家族の知らない一面を知っていただき、また訪問時の本人様との面会が良い形でできる様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会は時折あっているが限られており、本人からの要望があってもなかなか行くことも困難であり、悩むところです。	コロナ禍以前は家族の協力を得て法事のために外出したり、近所の人や友人・知人が気軽に来訪していた。現在は電話や手紙で交流している。手紙が届き代筆が必要な際は、職員が近況を知らせる手紙に写真を添えて返事を出している。職員が手伝って、年賀状が来た人や年賀状を出したい人に出すなど、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食卓の席や、リビングで過ごす場所、入浴の順番など、入居者様同士の関係を把握し関わり合いがうまくいき孤立させないように配慮し支援している。支障が生じた場合は随時変更している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームのいろんな事情があつて移る必要のある方に、次の施設への不安を少しでもなくすため入所後の訪問や関係者への情報提供と家族・本人へのフォローができることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その場になると本人の思いよりスタッフの考えで動いてしまい、一部の人にストレスとして出ることもあり、申し送り・連絡ノート・全体ミーティング・その場の注意で極力本人本位の重視の指導に努めている。	職員は利用者の話を聞く際、足を止め落ち着いて聞くことを心掛けている。日常会話や、利用者同士の会話、繰り返し同じ言葉が出てくる場合などから意向の把握に努めている。帰りたい時は面会を要請する、ドライブをする、甘いものが食べたいときは一緒におはぎなどのおやつ作りをするなど、利用者の思いに添う支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしは、本人に寄り添い話を聞く中で把握。また家族からの情報などで、生活環境、サービスの利用経過などの把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、連絡帳を勤務に入る前に必ず読んでおくことを指導して、勤務交代時は必ず申し送りを行い、その日の本人に合った対応をするようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的ミーティングの場や現場スタッフに記入を依頼したり、家族訪問時に希望などを聞き、また主治医との相談も入れたりで、現状のニーズに近い介護計画とモニタリングができています。	全体ミーティングで利用者の情報交換や、日常の観察・記録から詳細に情報を収集し、利用者の担当職員がモニタリングを行っている。遠方の家族も必ず月一回の面会があり、状況を説明し意向を確認している。利用者の思いに添うこと、今一番大切なことは何かを考慮したプラン作成を心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、連絡帳、まるごととらえたケア記録に記録を行い、課題に対してうまくいった方法などスタッフ間で情報を共有して、今後の計画に役立てるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況の変化やニーズに対して医療関係との連携や外出による気分転換など、柔軟な支援やサービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活の中に生きがいや張りを持っていたためボランティアの訪問や行事計画の実践の中で、今以上に地域資源の上手な利用を行うことでより心身が健康になれるように努力していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの病院受診付き添い又協力医の定期的な往診や受信により家族との相談を支え、安心した医療を受けていただいている。	入所時に今までのかかりつけ医の継続を尊重することを伝えている。現在は全利用者が協力医を希望し、利用者の状態により、2週間に1回、4週間に1回の訪問診療で対応している。専門医の受診が必要な際は職員が同行支援している。休日・夜間もかかりつけ医に相談し、かかりつけ医の指示に従い適切な支援につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師の配置はありません。協力医療機関との24時間体制の対応の取り交わしは行っており、医療機関からの定期的な往診と他の医療機関への定期受診を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報の提供と、病院への同行をすることによって本人や家族の安心に努めており、入院時の面会や関係者への連絡を行っている。また地域連携室との交流の場での情報交換も訪問して入手に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の場合、人員体制や高レベルの支援方法も必要で現時点では困難であると思われる。そのため、連携している医療機関に搬送し、対応してもらおうにしている。本人・家族と出来るだけ早い段階で話し合い、事業所として出来ることを行っていく。	入所時に看取りは行わない方針であることを伝えている。しかし、治療を要しない利用者の家族がホームでの看取りを希望された際は、自然な看取りになることを伝え行っている。リビングで日常と変わらない生活を送り、安心安楽に過ごせるケアに努めている。看取りの研修の実施と看取りの振り返りを行い次につなげている。	外部講師による研修を計画し準備していたが、コロナ禍のため、直前にやむなく中止に至っている。収束した際は改めて研修の実施が期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体ミーティング、研修、マニュアル、情報として流しており、スタッフ個々の能力の違いによる対応に差がないように繰り返し訓練していく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署と防災会社の協力を得て防災訓練を行っている。定期的にはスプリンクラーなどの点検も行っている。	防災訓練は年2回、昼夜を想定し利用者も参加して行っている。出火時間、出火場所の想定を変え、避難経路、避難場所を確認している。訓練後は消防署や防災会社のアドバイスがあり、アドバイスにより予告なしの訓練を行った。また、職員は訓練後に振り返りを行い次につなげている。隣の会社と日ごろの付き合いを大切にして非常時の協力体制を確認している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に言葉の使い方、対応には力をいれています。スタッフイレにも入居者様の人格及び言葉使いについて張り出し理解を深めています。書類管理は事務所にて保管・管理し、プライバシーの保護にも努めています。	自分が言われて不快な言葉は使わない、自分が聞いて不快な言葉は使わないなどを確認し、勉強会も行っている。職員は利用者一人ひとりの性格を十分把握し、その人にあった言葉をかけ、誇りを傷つけないようにしている。排泄の介助時は小さい声で、失敗の時もさりげなく対応し、利用者の不安感や羞恥心に配慮している。	勉強会で学んだこと(スピーチロック)などを理解し、現場で適切な言葉かけができていないか、個々の職員が振り返る体制があるとさらに良いと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉のかけ方や毎日の関わりの中で、信頼関係が出来た時に入居者様が自分の気持ちを訴える事が出来ると思います。気持ちを受け入れやすい環境作りにも力を入れています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ついスタッフのペースで行って入居者様との口論もあっていますが、その都度またはミーティングの中で反省する場面もあり、介護者としての誠意とプライドで落ち着いて業務に臨むようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回、訪問散髪に来ていただいております。その時に顔そりをされる方もいます。洋服も自分で選べる方には自分で選んでいただいております。そうでない方は着方が偏らないように配慮しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの中の畑で収穫した野菜を利用したり、できる方とは一緒に準備や後片付けをしスタッフも入居者様と同じ食事を一緒に食べて味を批評している。食事の準備・後片付けも一緒に出来ている。	美味しい食事を提供するために、開設時から食材にこだわり、体に優しくておいしい家庭的な料理を提供している。食べたいもの、必要な食材、野菜の収穫、買い物、調理、一緒に食事、片付けと、利用者は一連の作業を職員の支援を受け行っている。季節の行事食、器選び、献立の料理をお弁当にする、自然を感じ外で食事をするなど、食を楽しむ工夫が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態と状況をしっかり把握して、本人に必要な食事提供の仕方・水分の進め方・食事摂取のやり方もおいしく確実に安全に食して頂けるように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自ら歯磨きが可能な入居者様には、自身で行っていただいている。ご自身で出来ない場合はうがいなどを行い口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のサインを見逃さずに昼夜問わず、トイレでの排泄ができるように支援していますが、なかなか状況判断できなくて失敗もあってます。少しでも失敗やパットの使用を減らせるように努めています。	一人ひとりの排泄のタイミングを把握し、トイレでの排泄を基本としている。時間帯や季節なども考慮し適切な排泄用品を選択し、自立、見守り、声掛け誘導、介助など個々の状態に合わせ、排泄の自立に向けた支援に努めている。こまめな声掛け誘導で排泄が自立し、利用者の表情が豊かになった例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬や浣腸に頼らない自然な排便ができるように取り組んでいる。朝からの運動や繊維質の多い食事及び必要な水分量確保などにより、予防に取り組んでいる。高齢になると必要時に薬の必要があるので、無理のない排泄や下痢がないように対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日おきの入浴だが楽しみにしている。拒否が強い場合はシャワー浴・足浴のみにしたりしている。体調により入浴できなかった場合は翌日に入浴を行っている。	一番風呂・終わりの風呂・テレビを見た後・熱い風呂・ぬるい風呂・長風呂・短い風呂など利用者の好みや習慣に合わせ、入浴が楽しくなる支援に努めている。職員とおしゃべりをしてくつろぎ、入浴後の「気持ちよかったあ」の声は明るく満足感がうかがえる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠については、日頃より昼夜逆転のないように、日中は運動などを取り入れたレクレーション等により、覚醒を保ちながら活動されるように支援している。状況に応じては居室で休んでいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の確認はスタッフにより責任を持って行っている。薬の説明書にて名前・作用及び副作用などの注意事項を確認するようにしているが、全員把握はできていないため、再度理解に努めます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様によっては畑仕事や食事の買い出し・準備・後片付け・ホームの周囲の散歩などをして頂いている。ゲーム・作品作り・誕生日会・月の行事及び季節の行事を通して、入居者様に楽しんでいただき気分転換などを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周囲の散歩などいつでもいかれていたが、天気次第では入居者様全員に声かけして散歩したり、食事したりしている。	コロナ禍のため制限があり、季節ごとの恒例の花見などできていない。利用者のストレスの軽減とリハビリを兼ねて、ホーム周辺を散歩している。菜園や花の手入れはできない利用者も見学し、外気に触れる機会を作っている。時には周囲の季節を感じながら外で食事をするなど、気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭的なトラブル防止の意味もあり、個人的にはお金は所持されていません。但し必要な買い物は立替払いによりその時にスタッフ同伴にて買い物を行ったり、買い物ツアーの計画の中で必要な物を購入されるように支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話したり、ご家族様にも電話の取次ぎができることを伝えていません。郵便物も制限はしていません。しかし、できるだけ面会して頂ければと思っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い玄関ホールにはスロープ、広い廊下には手すりやエアコン、リビングにはゆったりと寛げるソファや大型テレビ、エアコン。居室やどの空間からも大きな窓があり、四季の景色、鳥や虫の音が楽しめます。浴室やトイレも清潔保持に努めています。	玄関ホールやリビングに観葉植物や季節の花、クリスマスをテーマにした飾りなど、季節感があふれていた。リビングに輪投げや風船バレーの道具を準備しみんなで楽しんでいる。毎朝、新聞に目を通しチラシを見るのが楽しみな利用者もいる。それぞれに好きな場所で自由に過ごしている利用者の表情は穏やかであった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれにゆっくりできるスペースと自由に自分の思いの場所に行くこともでき、入居者様同士ソファで楽しみ、食事テーブルを囲んで雑談や作業で過ごすように工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は一人一人自由にご使用いただき、馴染みの物や好みの物の持ち込まれたりして、安全に過ごしやすいように使っています。	利用者は大切にしていたものや使い慣れたものを家族に「持ってきて」と頼んでいる。家族写真やプレゼントの花、家族の結婚式のアルバムなどがあり、安心できる部屋づくりとなっている。コロナ禍で家族が居室に入れないためにシンプルな居室も見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーで手すりやスロープもあり入居者様の安全を考えた造りである。散歩やホーム敷地内の畑やベンチに出られる時もスタッフが見守りやすい造りとなっています。		